

普及指導員調査研究報告書

課題名：集落営農法人でのオリジナルユリ球根生産の取組み

長門農林事務所農業部 担当者氏名：加藤博之

<活動事例の要旨>

- ・オリジナルユリの球根増殖産地育成に向けて管内の法人に働きかけて、3年目の栽培となる。花き生産になじみのない生産者なので、関係機関との調整や生育状況に応じた管理指導など細かい指導をおこなった。

1 普及活動の課題・目標

- ・山口県が育成したユリ新品種「プチシリーズ」は現在8品種が品種登録されており、切り花の生産拡大に向けて球根の県内での安定供給が課題となっている。
- ・集落営農法人の経営安定のため経営の複合化がすすめられており、中でもアグリ中央は進んだ取り組みをしており、露地野菜等の取り組みがあるので、1品目として提案し定着を図る。

2 普及活動の内容

(1) 栽培暦、経営収支の説明。

取り組み意向のある法人栽培担当者に、県が作成した「オリジナルユリ球根増殖マニュアル」、及び「球根生産試算表」を使い説明し、理解をされた。

(2) 花き振興センター等関係機関との調整

球根増殖開始にあたり、事前準備、定植指導等の要請支援をおこなった。

(3) 導入にあたってのほ場準備の指導

事前の土壌消毒の実施、肥培管理の準備、定植作業の準備等を指導した。

(4) 導入後の栽培管理の指導

定植後の生育確認と必要な管理作業について、技術指導室、花き振興センターと連携し指導した。



定植作業実施



技術指導室の支援



花き振興センターの支援

表1 作付面積の推移（収穫年）

年度	H25	H26	H27(予定)
面積	4.2 a	5.2 a	6.6 a

(5) 経営収支の改善への助言

1年目の収穫後収支について検討し、作業手順の改善を検討協議した。

2年目は収穫後の調製作業を委託とすることが決まったので、作業手順について花き振興センターと協議し指導した。



収穫作業



調製選別作業



選別機械の利用

3 普及活動の成果

(1) 生育状況の把握と適期作業の実施

生育状況を適宜把握し、防除、施肥等の管理作業を指示することで、適期作業が実施された。

(2) 作業体系の改善（栽培の継続）

定植から収穫までの一連の作業について把握し、収支の改善に向けて作業体系の見直しが図られた。

(3) 平成26年度は3年目の取り組みをつづける。

4 今後の普及活動に向けて

(1) 収量性の向上

土づくり、病虫害管理技術の向上等による収量向上支援を継続する。

(2) 作業体系の改善

収支向上には作業時間の短縮（労賃の削減）が課題と考えられることから、作業精度の検討と作業方法の改善を検討する。

(3) 経営収支の改善

収支は黒字が見込めるよう、品種構成等についても検討を続ける。